

『子や孫に つなげていきたい 道がある』

～平成26年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～

道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」について◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過ごされがちです。そこで国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用する国民の方々に、道路とふれあい、道路の役割や重要性を改めて認識していただくため、道路の愛護活動や道路の正しい利用の啓発等の活動を特に推進することとしています。

期間：8月1日～8月31日

主催：国土交通省

後援：内閣府、警察庁、総務省、文部科学省、厚生労働省、環境省

協賛：93団体（教育機関、ボランティア団体、報道機関等）

◆「道路ふれあい月間」推進標語について◆

「道路ふれあい月間」における活動の一環として、昭和41年から、毎年広く一般から「道路ふれあい月間」推進標語を募集しています。

49回目を迎える本年は全国から6,075作品の応募があり、三好礼子委員（エッセイスト、元国際ラリーリスト）、やすみりえ委員（川柳作家、文化庁審議会分科会委員）、吉岡耀子委員（交通・環境ジャーナリスト）による審査が行われ、[小学生の部] [中学生の部] [一般の部] の部門毎に最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が選定されました。

選定された作品は、地方整備局や地方公共団体が

- ・地域住民等と強調した道路清掃、植樹帯の整備、不法占用物件の是正
- ・広報誌・マスコミを活用したPR活動
- ・パネル展示会や建設機械試乗会の開催等の活動を実施する際にキャッチコピーとして使用します（ポスター、チラシ、横断幕、電光掲示板、タスキへの掲示等）。

◆審査委員◆（総合選評）



三好礼子 委員

（三好委員）だんだんと審査のポイントが見えてきて、例年より迷うことなく選んだのですが、現場では自分の中でも、委員の中でも大逆転劇がありました。やはり、直感だけでなく意見を交わして時代を読みながら選ぶことの大切さ、勉強になりました。最後に我々がこだわったのは、「小学生らしさ」「中学生らしさ」「一般らしさ」だったかと思います。その世代ならではの元気があり、力のある作品を選ばせて頂きました。ぜひ活用して頂きたいです！！ありがとうございました。



やすみりえ 委員

（やすみ委員）「道路」に対する日々の思いをうまく標語としてまとめた作品が多かったです。普段の生活の中で感じることを誰かと共有しメッセージとして残したいと思っている人が、日本中にたくさんいてくれることをうれしく思います。



吉岡耀子 委員

（吉岡委員）最優秀の3作品には、いずれも各世代を代表するイキイキとした感性が貫かれています。子どもらしさ、中学生らしさ、そして責任ある大人の目から生み出され、それぞれに世相を反映しているので、人々の記憶にとどまりやすいのではないのでしょうか。標語を通して、時代のエッセンスが見えてくるようです。

◆平成26年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

【小学生の部】「あぶないよ スマホ見ないで どうろ見て」

高吉逞花さん（鹿児島県 南九州市立知覧小学校）

（三好委員）ピンと来ました。ニュースでもこのメッセージを聞かない日はありませんが、ストレートに「だめよ」と言われると、ハッとしますね。やさしさ（「あぶないよ」の言いまわし）、厳しさ（「どうろ見て」の願い）、とても気持ちの良い作品ですね。
（やすみ委員）スマホのながら歩きは日常でよく目にする光景です。その様子を見ての素直な気持ちを作品として完成させ、「あぶないよ」という言葉が等身大で使われている点も印象に残りました。
（吉岡委員）スマホ問題をストレートに訴えた子供の声。標語としてインパクトのある呼びかけになっています。

【中学生の部】「がんばれる 勇気をくれる 道がある」

松山開豊さん（栃木県 県立佐野高等学校附属中学校）

（三好委員）私もいつもそう思っています。大好きな道は、歩いているだけで生きる力が湧いてきます。作者もさっというんな壁にぶち当たりながらも、その道の上で様々な光景を見て、力をもらった経験があるのでしょうか。子供から大人まで共感できる作品です。
（やすみ委員）若者らしい前向きな心情を標語として発信しています。見慣れたいつもの道もこのような感覚で眺めると新しい発見があるのではないのでしょうか。すがすがしい雰囲気の良い作品だと思います。
（吉岡委員）中学生とは、いくつもの岐路に立って、悩む年代。「頑張る」「勇気」という言葉に素直さと頼もしさを感じ、エールを送りたくなります。

【一般の部】「子や孫に つなげていきたい 道がある」

角森玲子さん（島根県 安来市）

（三好委員）49回目ということで、再生が課題となっている日本の道をどうするのか？ そんな時代と人の縁をきれいにうたった作品ですね。ストレートに思いが伝わってきます。家族のことを言ってますが、人間すべての生活にどれだけ道が大切かを感じさせられます。永遠のテーマですね。きれいな作品だと思います。
（やすみ委員）次世代へのメッセージをしっかりと含んだ標語で、多くの人々の共感を得る内容として評価されました。日本中のあらゆる道をイメージさせてくれます。
（吉岡委員）高齢化社会を反映した標語です。家族への思いが、やさしさと強さに裏打ちされており、語句もきれいにまとまっています。道路への信頼感も表しています。

◎最優秀賞3作品のうち、3委員に好評だった

「子や孫に つなげていきたい 道がある」を今年度の代表標語とします。

優秀賞（6作品）

【小学生の部】「一つだけ そんな気持ちで ゴミの山」

寺田武蔵さん（千葉県 柏市立柏第一小学校）

【通学路 楽しい今日の 入り口だ】

中山莉里加さん（千葉県 我孫子市立根戸小学校）

【中学生の部】「人と人 絆を深く つなぐ道」

鈴木日頼さん（栃木県 鹿沼市立南押原中学校）

「ぼくたちの 生活支える 道がある」

嶋田隼さん（神奈川県 川崎市立日吉中学校）

【一般の部】「くつ音も こころも軽く 歩く道」

柳沢裕昭さん（千葉県 市川市）

「道は友 ちか道 より道 まわり道」

有田進さん（鳥取県 鳥取市）